

KYUSHU INSTITUTE OF TECHNOLOGY



# KYUTECH TIMES

VOL. **67**  
2026.4.1 | SPRING



## CONTENTS

04 | VOICE OF GRADUATE

日本製鉄株式会社  
日野 紘稀さん

06 | TOPICS

高専から広がる九工大の学び

07 | CAREER DESIGN

オンライン保護者説明会  
開催報告

特集 | 九工大 *Now*

## 新学長就任インタビュー

新学長就任インタビュー

# 社会に実装する知を磨く 九州工業大学が挑む 次代のイノベーション



**社会の変化と大学の使命**

2026年4月、九州工業大学の学長に就任した安永卓生。就任にあたり、まず心に浮かんだのは「この大学は、まだ本領を発揮し切れていないのではないかと」思う思いだったという。

「本学は、ものづくりと工学教育、情報工学を中心に、日本の産業と社会を支えてきた誇りと実績を持つ大学です。その力は確かです。しかし同時に、その力を十分に社会へ出し切れていないのではないかと感じました。その力を引き出し、社会に伝え、次の価値へとつなげること。それが

学長としての私の責任だと考えています。」

社会の変化は、かつてない速度で進んでいる。少子化、産業構造の転換、テクノロジーの急速な進展。大学に求められる役割もまた、変わりつつある。

「大学は、研究成果や人材を、供給する存在にとどまるべきではありません。知を生み出すだけでは、それを社会とともに、編み直し、実装する、主体であるべきです。」

Profile  
国立大学法人九州工業大学 学長  
**安永 卓生** YASUNAGA Takuo

経歴

1965年、愛媛県生まれ。東京大学で博士（理学）を取得。日本学術振興会特別研究員を経て、東京大学理学部助手として研究に従事。2001年に九州工業大学情報工学部へ着任し、助教授、教授として教育・研究に携わる。その後、副学長（入試・広報担当）、大学院情報工学研究院長、理事・副学長として大学運営の中心的役割を担い、2026年4月より九州工業大学学長に就任。本学が出資する株式会社 Kyutech ARISE の取締役（CTO）も兼務し、研究成果を社会へ広げる取り組みを戦略的に位置づけている。

「知のエコシステム」という構想

その思いは、2025年に策定した「九州工業大学ビジョン2040」にも体现されている。そこに込められたのは、「研究による知の創出」と「人が生み出す価値の最大化」を両輪とし、世界にイノベーションを生み出す大学であるという意思だ。

ビジョンの中核にあるのは、「知のエコシステム」という考え方である。大学で生まれた技術と知見を社会へとつなぎ、社会の中で磨かれた「イノベーション」を再び大学へ取り込み、次の創造へとつなげる循環の仕組みだ。

「人口減少社会において、大学は若者だけの場ではありません。年齢や立場を超えて学び続ける人を支える存在である必要があります。知を循環させ、多様な人々が繋がる。知のプラットフォームとして機能することが、これからの大学の使命です。」

「基盤」可視化が未来をつくる

大学が持つ人材、組織、研究活動、資源といった有形・無形の価値を、デジタル技術によって可視化し、共有できるインフラを整える。

「状況を正確に把握できなければ、正しい判断はできません。データ集積の仕組みを整え、プラットフォームによってリアルタイムに状況を把握する。DXは管理を強めるためではなく、人が本来注ぐべき教育・研究・対話の時間を取り戻すためのものです。」

「経営」投資する大学への転換

「資産を消費する大学」から「資産に投資する大学」への転換を掲げる。

「教育・研究・人材への投資が、大学の力を持続的に高めていく好循環を築きたい。あえて『稼ぐ大学』という言葉を使うなら、それは利益追求ではなく、大学の力を自ら高め続けていく、

という意味です。国の方針をただ受け入れるのではなく、主体的に読み解き、活かしていく姿勢が重要です。」

「文化」九工大らしさを、未来へ

創立117年を迎える九州工業大学。開学以来掲げてきた「技術に堪能なる士君子」の養成という理念を、未来にどう継承するか。

「本学は工学系単科大学として、技術にこだわりの、尖ることを恐れない文化を育んできました。同時に、専門をつなぎ、翻訳し、新しい価値を生み出してきた大学でもあります。挑戦する人が集まり、挑戦が連鎖していく環境をつくりたい。」

教育・研究の深化

教育面では、メジャー/マイナー制や副プログラムなどを通して学びの多様性を確保し、学生が主体的に自らを育てられる環境づくりを進める。アンコンシヤス・バイアスへの対応や女子学生支援など、多様性の確保も重要なテーマだ。

研究面では、研究時間と研究資金のセーフティネットを整え、教員が本来の研究に集中できる環境を確保する。社会人博士の受け入れや、社会人の学び直しを支えるリカレント教育の展開

も視野に入れる。

「社会連携は目的ではなく手段です。教育と研究を通じて生み出す知の価値創造につながる連携でなければ意味がありません。」

※主な専門分野とそれ以外の分野を体系的に学修する仕組み、学位プログラム以外に突る教育プログラム。

学び続けるエンジニア

では、九州工業大学が育てたい人材像とは何か。「自らの強みを理解し、卒業後も主体的に学び続けるエンジニアです。試行錯誤や失敗も含めて学びと捉え、自分の経験や工夫を言葉にして周囲と共有できる力を持つ人材。専門を深めながらも、異なる分野と接続できる人こそが、新しい価値を生み出します。」

生成AIの登場は、学びのあり方そのものを変えてつづける。

「知識を覚えるだけではなく、AIと対話しながら、自らの知識やスキルを高め、判断する力が求められています。未知の時代を切り拓くエンジニアを育てたい。」

卒業はゴールではない

最後に、高校生や保護者へのメッセージを尋ねた。「進路選択は、不安を伴うものです。しかし大切なのは『何を学ぶか』だけではなく、『どのような学び続けるか』です。九州工業大学での学びは、卒業がゴールではありません。社会に出てからも学び続けるための出発点です。技術は進化し続けます。だからこそ、学び続ける姿勢そのものが最大の力になります。」

本学ではこれを『学び増し』と呼びます。一度身につけた知識や技術に新たな学びを重ね、自らの専門性を更新し続けること。それが変化の激しい時代を生き抜く力になります。」

挑戦する人が集い、挑戦が循環する大学へ。九州工業大学は今、新たなフェーズへ踏み出すところとしている。

Personal Questions  
—学長の素顔に迫る—

Q. 趣味は？

読書。

気づけばKindle蔵書4,000冊超。漫画やアニメも好きな“活字オタク”です。「ホーの一族」や『機動戦士ガンダム』は今も心に残る作品です。

Q. 朝型派？夜型派？

（超）朝型です。

毎日3時に起きる生活を、学生の頃から続けています。

Q. 動画は倍速派？等速派？

基本は等速派。

気になるところは何度も見返します。

Q. 剣道歴は？

小学校から通算25年。現在は錬士六段。

学長室にも竹刀があります。

Q. 専門を極める派？分野横断派？

分野横断派。

異なる分野がつながる瞬間が一番わくわくします。

Q. 必須アイテムは？

ウエストポーチ。

財布・スマホ・鍵・時々文庫本。これがないと一日が始まりません。



Steel Maker

鉄鋼メーカー



WORKPLACE

日本製鉄株式会社

授業、研究室、課外活動と

九工大でのすべての学びをチカラにして

世界的な大手企業の電気エンジニアに！



PROFILE

日本製鉄株式会社  
設備・保全技術センター  
制御技術部  
九州制御技術室  
大分庄延電気技術課

日野 紘稀さん  
HINO Koki

2022年3月  
工学部 電気電子工学科  
電気工学コース 卒業  
2024年3月  
大学院生命体工学研究科  
博士前期課程  
生体機能応用工学専攻 修了

好きなことに取り組み、日本製鉄株式会社に  
就職を決めた日野さんが、今も実感しているのは  
「九工大に進学して、良かった！」ということ。  
大学時代のどんな学び、どんな生活が  
どのように今の仕事に結びついたのか。  
現在の仕事内容や将来の目標も含めて、聞いてみました。

Q1 九工大を選んだ理由は何ですか

高校時代に物理が一番好きで、中でも電気分野に興味がありました。工学部への進学を考えた時、先生に九工大を勧められました。自分が学びたい分野があったことが大きな理由ですが、就職に強い大学であること、地元の愛媛県からも近いという立地にも惹かれました。今振り返っても、九工大を選んで本当によかったと思っています。

Q2 大学ではどんな事を学びましたか

電気電子工学科だったので、電力や電気回路、パワーエレクトロニクスなどの電気工学と、信号処理や制御回路などの電子工学について学びました。中でもインバーターやコンバーターやそれらの制御などに特に関心を持ち、3年生では電気コースを選択しました。こうした講義がきっかけで大学院への進学も決め、パワーエレクトロニクスに関する研究室に進みました。

Q3 大学時代に「やってよかった」と思うことはありますか

1年から3年まで取り組んだ大学祭実行委員会での活動と、マレーシアへの1週間の短期留学です。大学祭実行委員会では、スポンサー探し・交渉から設備・運営まで、プロジェクトをメンバーで遂行していた経験がとても楽しく、やりがいもありました。留学では、マレーシアの学生の高い学習意欲と積極性に刺激されました。その経験は、社会人になってどんな仕事にも積極的に取り組むマインドに活きていると思います。

Q4 今の企業への就職を志望した理由は何ですか

大学での学びを活かせる仕事をしたいと思い、就職活動をしました。はじめは自分でも電気系と鉄鋼業が結びつきませんでした。九工大OB社員から、鉄鋼業は装置産業といわれるほど大きな設備が多数あることを直接聞いたこと、また、実際に製鉄所を見学した際にスケールの大きさとダイナミックさに感動したことが、志望の大きなきっかけとなりました。

Q5 現在の仕事内容を教えてください

日本製鉄では、設備技術者が企画・設計から立ち上げ・改善まで一貫したオーナーエンジニアリングを実行しています。私は設備技術のなかでも電気エンジニアとして、九州製鉄所大分地区の熱延工場の設備新設案件や保全案件の業務を担当しています。当初はデスクワークばかりかと思いましたが、実物を見ないとわからないことも多いので、工場内を歩き回っていることも多いです。

Q6 大学での学びで、今の仕事に役立っていることはありますか

まず一番大きいのは、パワーエレクトロニクスに関する知識です。現在、電気エンジニアとして駆動装置の更新業務に携わっており、大学の講義や研究室での学びが仕事に活かされています。また、パワーエレクトロニクスだけでなく、その他の講義で学んだことも、今の仕事に大きく役立っています。さらに、学生生活や研究活動で培ったコミュニケーション力のおかげで、上司や先輩、同僚などとの関係構築もうまくできていると思います。

Q7 仕事のやりがいを教えてください

まだ入社2年目なので完成までいった案件はありませんが、現在、担当している案件を円滑に立ち上げられるよう、社内外多くの人と関わりながら、同じ目的に向かって業務に取り組んでいます。その中で日々学ぶことはありますが、自分の意見が相手に伝わり、それが一つの形になっていくプロセスにやりがいを感じています。



Q8 今後やりたいことを教えてください

仕事面でもやりたいことは、将来的に大きなモニターを、自分が設計した制御システムで動かすことです。たとえば、熱延工場にミルモーターという大きな電動機がありますが、将来このミルモーターの更新業務があった際には、電気を担当者として携わりたいです。そのためには、目の前の業務に真摯に取り組む、一つずつ経験と知識を蓄えられるよう日々精進しています。

Q9 在学生、九工大を目指す高校生にメッセージをお願いします

大学生活では、学業や研究だけでなく、サークル活動やアルバイトなどにも楽しんで取り組んでください。一つひとつの出来事や出会いが大きな財産になります。私は、社会人になってから九工大の知名度の高さを実感しました。多くの先輩たちが様々な分野で活躍しています。九工大でしかできない体験もたくさんあると思います。自身の決断に後悔を残さないようにしてください。

MY WORKPLACE

就職先のご紹介

日本製鉄株式会社



日本最大の鉄鋼メーカーで、世界でもトップクラスの生産能力を維持しています。国内製鉄所7拠点(北日本、東日本、名古屋、関西、瀬戸内、山口、九州)、海外にも北米・南米・欧州・アジアなど多数の拠点を有し、「総合世界No.1の鉄鋼メーカー」を目指しています。

売上高

約 8.7兆円 (2024年度)

年間生産量

2024年度

約 8,295万トン

2025年度見通し

約 8,000万トン前後



# CAREER DESIGN

# TOPICS



## オンライン保護者説明会開催報告

2025年11月開催

今回は新たなトピックとして、大学院生命体工学研究科の井上 創造教授から、研究室に入る前と後の比較や大学院での研究、エンジニアとは？、学部卒・修士卒・博士卒の生涯年収の違いなどを紹介しました。井上教授自身も保護者であるため、「大学教員」と「保護者」の2つの視点からのお話しが印象的でした。



今回お話ししたのは井上創造 教授

九工大の取り組みを紹介しました！

- 人材育成の取り組み
- キャリア支援・就活体験談の紹介
- 海外留学支援の紹介
- 研究室活動と大学院教育について



岩井 正輝さん 大学院情報工学府博士前期課程2年

就活を意識し始めた時期：高専4年(学部1年相当)

就活を終えた時期：博士前期課程1年の秋ごろ

### キャリアコンサルタントへ相談するオススメポイント！

#### POINT1

自分の考えを整理できる！

親身に寄り添ってもらえるだけでなく、会話を重ねる中で自然と自身のやりたいことや課題、これから取り組むべきことを整理できて前向きになれる

#### POINT2

相談料0円

営利企業が提供する同種のサービスと異なり、キャンパスにいながら費用負担なく、フラットな視点で対応してもらえる

#### POINT3

具体的アドバイスがもらえる

大学に蓄積されたデータベース、インターネットで入手できる情報、そして各コンサルタントが有する知見や経験に基づいてアドバイスや指摘が受けられる



九工大のキャリアコンサルタント

### インターンシップは必要？

ミスマッチを防ぐという観点では重要！

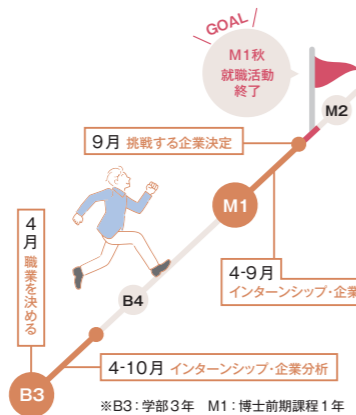
#### メリット

- 時間をかけて社内の雰囲気や業務とのマッチング度合いを測ることができる
- インターンシップ参加者限定で、初期配属確約型の選考に進めるケースがある
- 本選考に向けた練習の機会として活用できる
- その後の選考で有利になるケースも多い

#### デメリット

- 時間的・経済的な負担

### 就活の軸の決め方！



※B3: 学部3年 M1: 博士前期課程1年

### 後輩学生へのこれだけはやっておくべし3選

- 1 あらゆる機会に臆せず挑戦する  
イベント参加が企業との出会いにつながる
- 2 困難に粘り強く立ち向かう  
インターンシップ選考に落ちても挑戦は力になる
- 3 自分の将来に自分で責任を持つ  
自ら選んだ進路は後悔やミスマッチが少ない

### CHECK!

今回は11月の開催を予定しています！九工大HPのイベント欄にて、9月頃にお知らせします。



篠崎 日和さん 大学院工学府博士前期課程2年

就活を意識し始めた時期：学部4年の12月ごろ

就活を終えた時期：博士前期課程1年の11月ごろ

### 就活を意識し始めたのはいつから？

学部4年の12月ごろから説明会に参加をし始めました。大学院生は1年、学部生は3年の5月ごろには、夏季インターンシップのエントリーに向けて動いた方がいいのではないかと思います。

### 夏季インターンシップに参加して大変だったことは？

インターンシップに行っている間、研究活動がストップしてしまうことや授業との両立が大変でした。

### 内定が決まったのはいつごろ？

1年の11月ごろに、夏季インターンシップから早期選考の流れが決まりました。夏季インターンシップに参加しなかった周りの学生は、秋・冬インターンシップを経て3月くらいまで就職活動を続けていました。

### インターンシップは必要？

絶対に必要だと思います！

#### メリット

- 説明会で聞く以上に社風が分かる
- 働くイメージが具体的に掴める
- 就活の軸を固めることができる
- インターンシップにも選考があるので、本選考の練習になる

#### デメリット

- 秋・冬インターンシップは授業や研究発表と重なりとても忙しい場合がある
- 高倍率なので不合格が続いてメンタルにくることがある

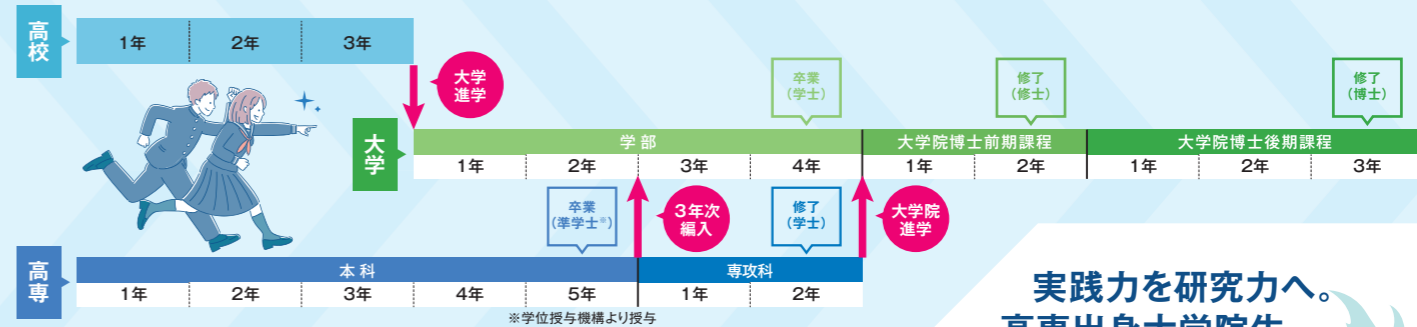
### 就活中の子供に対する親の理想的な関わり方は？

親として心配になる気持ちもわかるけど、大学生は独立した大人なのでそれぞれの選択を尊重してほしい！

## 大学への進路は、高校だけじゃない！

### 高専から広がる九工大の学び

### 高専から九工大につながる進学ルート



### 実践力を研究力へ。高専出身大学院生の挑戦

高専で培った実践力は、大学・大学院での学びや研究にどのようにつながっているのでしょうか。高専出身学生の声を通して、九工大ならではの学びの広がりをご紹介します。(\*所属は2026年1月取材時)

#### PROFILE

情報工学部生命化学情報工学科 4年  
花田耕介研究室 所属  
久留米工業高等専門学校 電気電子工学科 卒業



寺元 一耕さん  
TERAMOTO Ikko

#### Q 高専本科卒業後、専攻科ではなく、大学編入を選んだ理由は？

高専卒業後の進路として就職や専攻科も考えましたが、大学に進むことで、専門分野の枠を超えた学びに挑戦し、多様な人と出会いたいと考えたことが進学の原因です。

#### Q 進学を決めたとき、不安だったことはありましたか？

高専とは違う分野に進学したので不安はありましたが、編入生へのサポート体制が整っており、安心して学びを進めることができました。

#### Q 研究以外では大学でどんなチャレンジをしましたか？

2025年7月に「福岡末踏プロジェクト」に採択され、行政書士事務所向けの業務改善システム「Pascaline」の開発を進めています。2026年1月にはスタートアップ「株式会社Pascaline」を設立し、飯塚市長を表敬訪問する機会もいただきました。

#### Q 将来について教えてください

大学院に進学し、研究と会社経営を両立しながら、行政書士をはじめとする士業の業務効率化に取り組みたいと考えています。「誰かに直接感謝されるものを作りたい」という思いを大切に、挑戦を続けていきます。



株式会社 Pascaline

<https://pascaline.jp/>



飯塚市長表敬訪問の様子

#### PROFILE

大学院生命体工学研究科 博士前期課程  
生体機能応用工学専攻 1年  
安田隆研究室 所属  
呉工業高等専門学校 電子情報工学科 卒業/  
専攻科 プロジェクトデザイン工学専攻 修了



小田 涼介さん  
ODA Ryosuke

#### Q 高専専攻科修了後、就職ではなく、大学院進学を選んだ理由は？

高専時代に研究の面白さを知り、より本格的に取り組みたいと大学院進学を選びました。九工大を選んだ理由は、専攻科で培った電気電子と医療を横断する研究を深められる環境だと感じたからです。

#### Q 高専専攻科から大学院に進学する強みは？

高専本科・専攻科で研究を一通り経験していたことは、大学院で大きな強みになっています。実験や発表、学会参加を経験していたため、大学院では自ら考え、主体的に研究を進める姿勢が自然と身につけていました。

#### Q 研究以外では大学院でどんなチャレンジをしましたか？

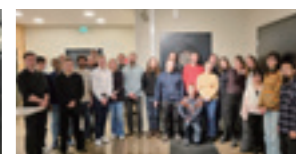
2025年11月には、フィンランドの大学院で約1か月間、短期研究インターンに参加しました。海外での研究や生活を通して、視野が大きく広がり、自分の研究の在り方や将来について深く考えるようになりました。

#### Q 将来について教えてください

海外での進学や就職も視野に入れながら、自分で選択し、自分の意志で進路を切り開いていきたいと考えています。



微細加工技術を用いたものづくり



留学先の研究室メンバーとの集合写真

進学ルートに応じて、九工大では多様な入学者選抜を実施しています。高校生・高専生それぞれに向けた入試情報は、九工大HPで紹介しています。

九工大が目指す「多様な学びの入り口」  
入学希望の方へ | 九州工業大学



# INFORMATION

KYUSHU INSTITUTE OF TECHNOLOGY 2026 SPRING



国立大学法人  
九州工業大学

## 九工大 News 九工大の取り組みをご紹介します

### 学生チーム「YOKABIO」が国際大会BIOMOD 2025で世界第3位!

本学情報工学部の学生チーム「YOKABIO」が、国際生体分子コンペティション「BIOMOD 2025」で世界第3位を獲得しました。DNAとアミノ酸を組み合わせた新規手法「DNA-clock」を提案し、その革新性が高く評価されたものです。分野横断的な連携と留学生を含む多様なチーム力を強みに、Computational Biomolecular Design Awardをはじめ複数の部門賞も受賞し、過去最高の成績を取めました。学生主体の挑戦が、国際舞台で確かな成果として結実しました。



### 戸畑区役所に九工大生が設計した若者の居場所「とばたひらきば」が完成

2025年12月21日、北九州市戸畑区役所2階に、若者の居場所「とばたひらきば」が完成し、完成披露イベントが行われました。戸畑区内の高校生の「気軽に集まれる場所がほしい」という声を受け、戸畑区役所と九工大が連携。大学院工学府「建築デザイン特論」を履修する学生たちが、ヒアリングやワークショップを重ね、北九州市産木材「KITAQ WOOD」を使った温かな空間をかたちにしました。九工大は今後も、学生の主体的な学びを通じて地域課題の解決に取り組んでいきます。

表紙より

### 固体と液体の境目に潜む“ナノ世界”を可視化する

スマートフォンや自動車、そして身の回りのさまざまなセンサー。現代社会を支える電子デバイスは、ナノメートル（1ミリの100万分の1）の世界で精密につくられています。その製造工程の中でも、水を使った洗浄や研磨などの「ウェット工程」は、半導体製造でも行われる、基板の表面を原子レベルでなめらかに整える重要なプロセスです。しかしこの工程では、ウイルスより小さなナノ粒子や微細な気泡が液体の中で複雑に動き、デバイスの性能に影響を与えることがあります。ところが、固体表面と液体が接する“ごく薄い層”で何が起きているのかを直接観察することは、これまで非常に困難でした。バナート研究室では、この「見えなかった世界」を光の力で可視化することに挑んでいます。界面近傍にだけ届く「エバネッセント光」という特殊な光

を利用し、さらに複数の色の光を解析する手法や、光が重なり合うときに生じる干渉現象を組み合わせることで、液体中のナノ粒子の三次元的な動きをナノメートル単位で捉える技術を確立・発展させています。言い換えると、これまで霧の中だったナノ粒子の動きが、クリアな立体映像として見えるようになってきたのです。「測ることで理解し、理解することで創る」をモットーに、顕微鏡や光を使った観察装置を学生とともに設計・改良しながら研究を進めています。ナノの速い現象を追う挑戦は決して容易ではありませんが、“見えなかったものが見えた瞬間”の感動が、研究を続ける大きな原動力になっています。次世代の科学技術を担う人材育成と持続可能な社会の実現に向け、日々挑戦を重ねています。



飯塚キャンパス

### カチョーンルンアン パナート 准教授

大学院情報工学研究院  
知的システム工学研究系



▲エバネッセント光を利用した界面現象顕微鏡

## お知らせ

九工大通信は、本号（第67号）をもちまして冊子の郵送を終了いたします。これまでご愛読いただき、誠にありがとうございました。今後の情報は「九工大通信WEB」およびSNSにて発信してまいります。引き続きご覧いただけますと幸いです。

九工大通信 WEB



Facebook



X



Instagram

